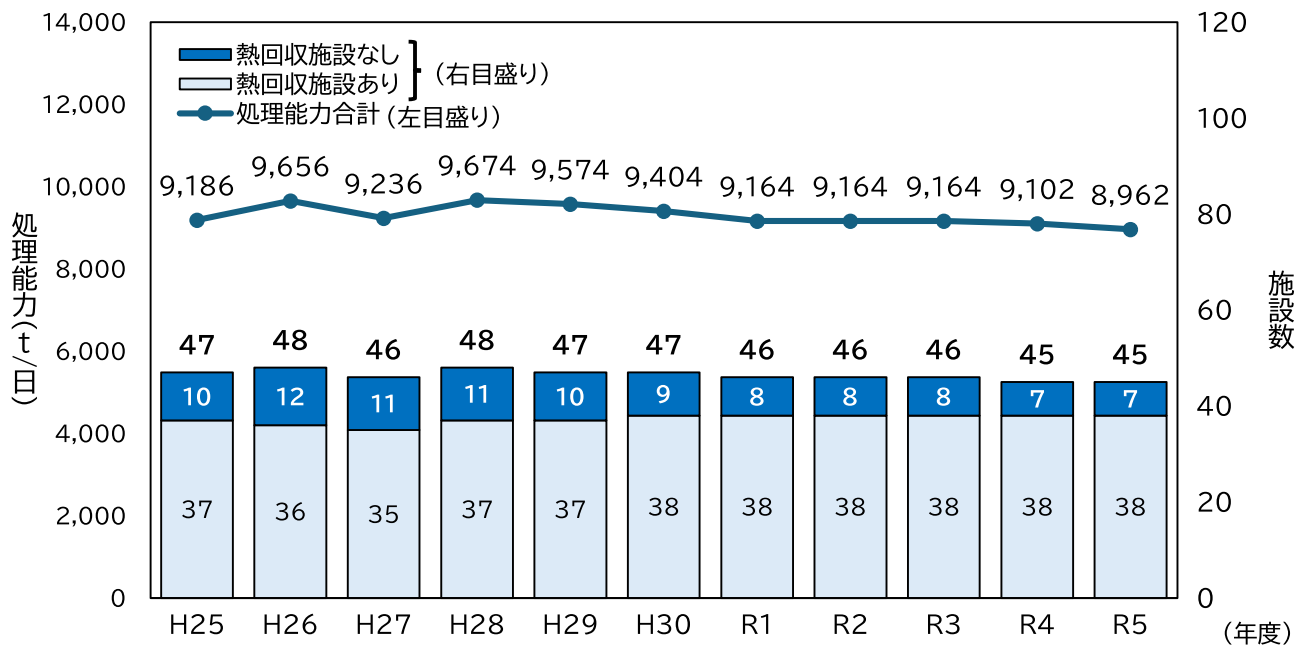


## 7 焼却施設の状況

令和5年度の焼却施設は45施設で、10年前(平成25年度)の47施設から2施設減少しました。処理能力の合計は8,962t/日で、10年前から2.4%、5年前(平成30年度)から4.7%、前年度から1.5%減少しました。また、熱回収施設(発電・余熱利用等)を有する焼却処理施設は38施設で、10年前から1施設増加しています。一方、熱回収なしの施設は7施設まで減少しています。

ごみ発生量の減少見通しに合わせて過剰能力を抑えつつ更新を進めてきた結果、熱回収ありの施設比率が上昇していることから、質の高度化(熱回収の標準化)が進展していると評価できます。



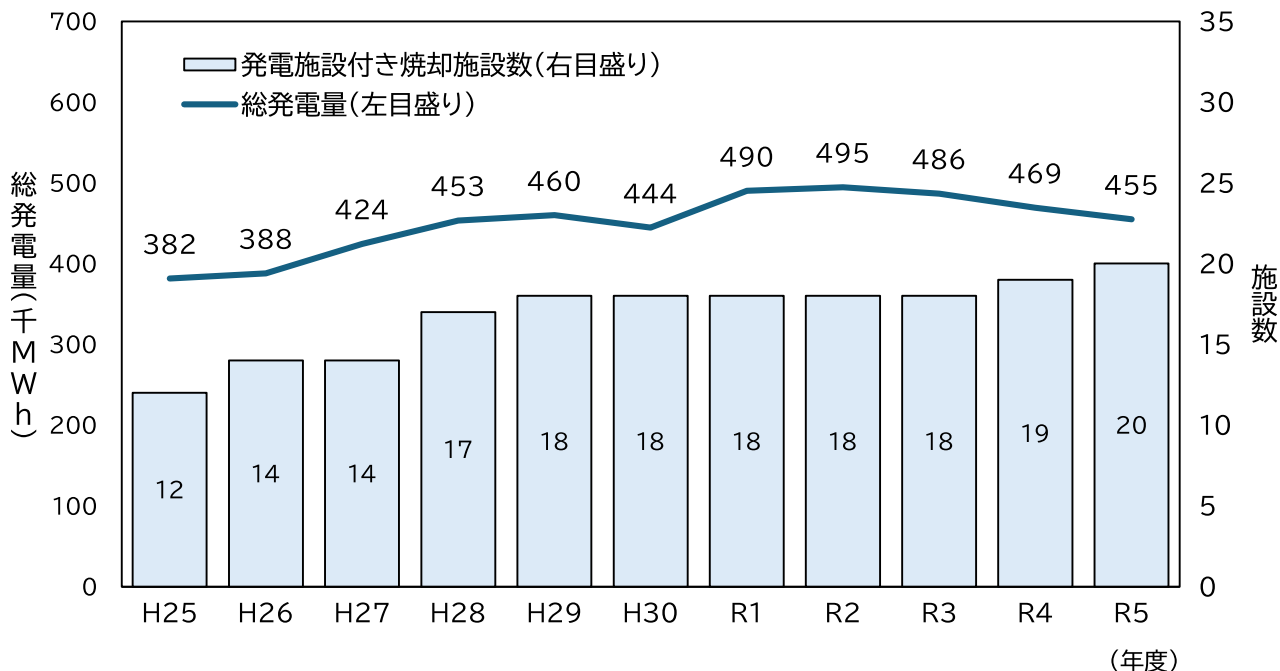
※端数処理の関係で本文中の値とグラフから計算した値が一致しない場合がある。

出典：一般廃棄物処理事業の概況(埼玉県)

図16 焼却施設及び処理能力の推移

広域化・集約化の観点でも、現時点で施設数の微減と能力の最適化が順調に進捗していると考えます。今後も将来の人口・排出量を見据えたブロック単位の再編を着実に進める必要がありますが、過度な集約は輸送距離の増大につながり、災害時などにおける廃棄物処理のリスク分散の観点からも、①複線化(相互受入・代替処理協定)、②多炉構成や小規模予備炉の確保、③民間の廃棄物処理施設の活用連携等でレジリエンスを担保することが重要です。

令和5年度の発電施設付き焼却施設は 20 施設で、10 年前から 8 施設、5 年前から 2 施設、前年度から 1 施設増加しました。総発電量は 455 千 MWh で、10 年前から 19.3%、5 年前から 2.4%増加、前年度からは 3.1%減少しています。これはおおむね 15.3 万世帯分の年間電力使用量に相当します(試算条件：一世帯当たり 247.8kWh/月)。



※端数処理の関係で本文中の値とグラフから計算した値が一致しない場合がある。

出典：一般廃棄物処理事業の概況(埼玉県)

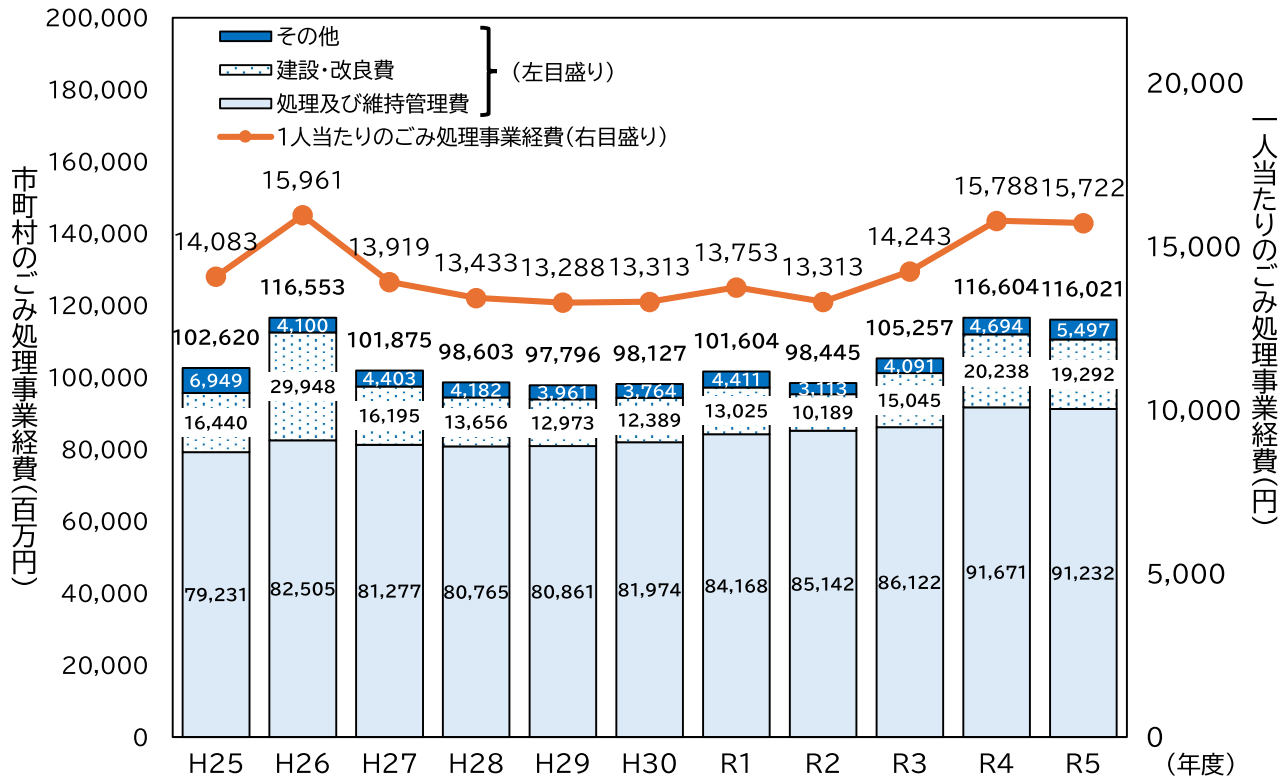
図 17 発電施設を有する焼却施設数及び総発電量の推移

発電施設付き焼却施設は 12 から 20 施設に増え、設備面の拡充は進みましたが、総発電量は令和 2 年度の 495 千 MWh をピークに令和 5 年度は 455 千 MWh とやや減少しています。これは、①焼却投入量の逡減(ごみの焼却量の減少・広域運用での負荷分散)、②施設更新に伴う定期改修・運転条件の変化、③発電偏重から熱供給(温水・蒸気)併用へのシフト等が重なった結果と考えられます。

## 8 ごみ処理経費の現状

令和5年度の市町村のごみ処理経費の合計は1,160億円で、10年前(平成25年度)から13.1%、5年前(平成30年度)から18.2%増加し、前年度から0.5%減少しました。

令和5年度の年間1人当たりのごみ処理事業経費は15,722円で、10年前から11.6%、5年前から18.1%増加し、前年度から0.4%減少しました。



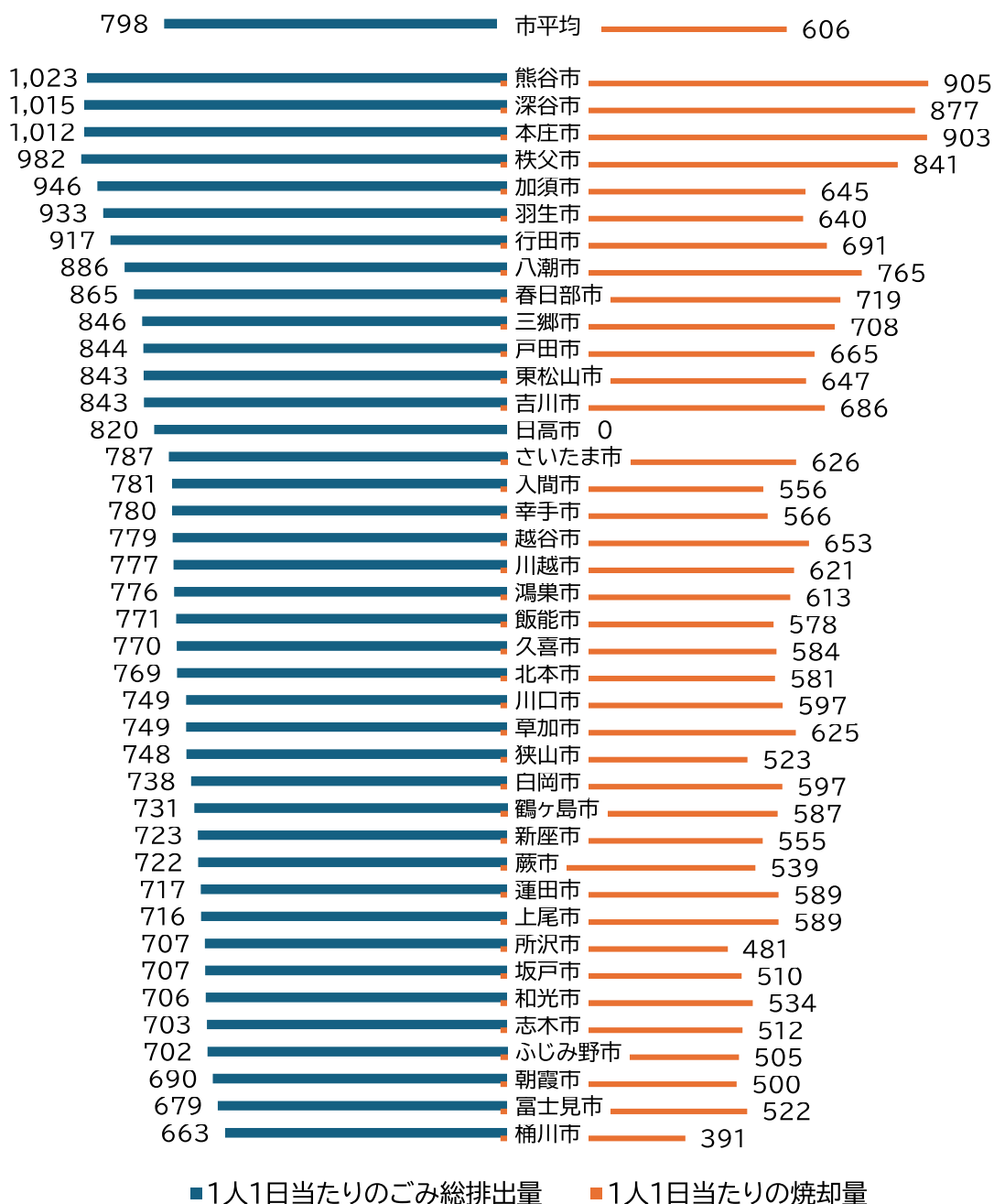
※端数処理の関係で本文中の値とグラフから計算した値が一致しない場合がある。

出典：一般廃棄物処理事業の概況(埼玉県)

図 18 ごみ処理経費の推移

## 9 市町村別の処理状況

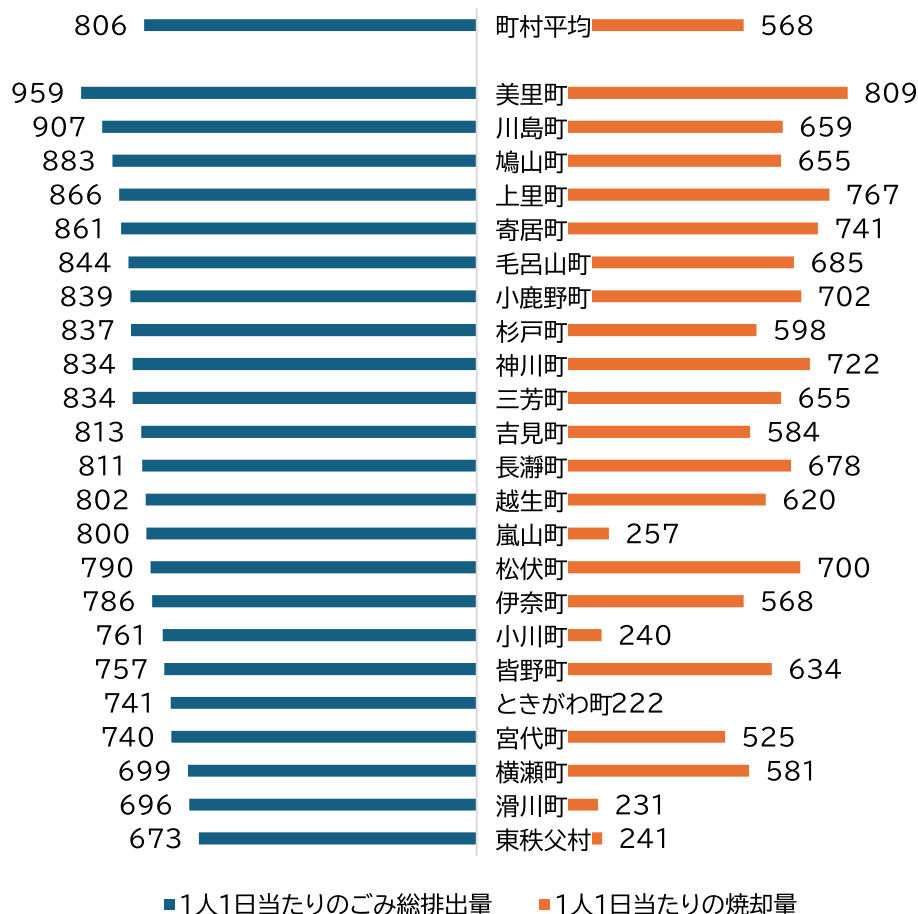
市部では、総排出量は 663～1,023 g/人・日(市平均 798 g/人・日)、焼却量は 0(日高市)～905 g/人・日(同 606 g/人・日)の範囲となっています。なお、日高市は可燃ごみを民間セメント資源化施設に委託しているため、焼却を行っておらず、市平均を押し下げているが、市部の焼却量はおおむね 391～905 g/人・日(平均 621 g/人・日)です。



出典：一般廃棄物処理事業の概況(埼玉県)

図 19 1人1日当たりのごみ排出量と焼却量(市部、排出量の多い順)(令和5年度実績)

町村部では、総排出量は673～959 g/人・日(町村平均 806 g/人・日)、焼却量は222～809 g/人・日(同 568 g/人・日)の範囲となっています。なお、滑川町・嵐山町・小川町・ときがわ町・東秩父村は、可燃ごみを民間バイオガスプラントに委託しているため、焼却量が200g 台と特異的に低く、町村平均を押し下げています。これら5町村を除くと、町村部の焼却量はおおむね 525～809 g/人・日(平均 660 g/人・日)です。



出典：一般廃棄物処理事業の概況(埼玉県)

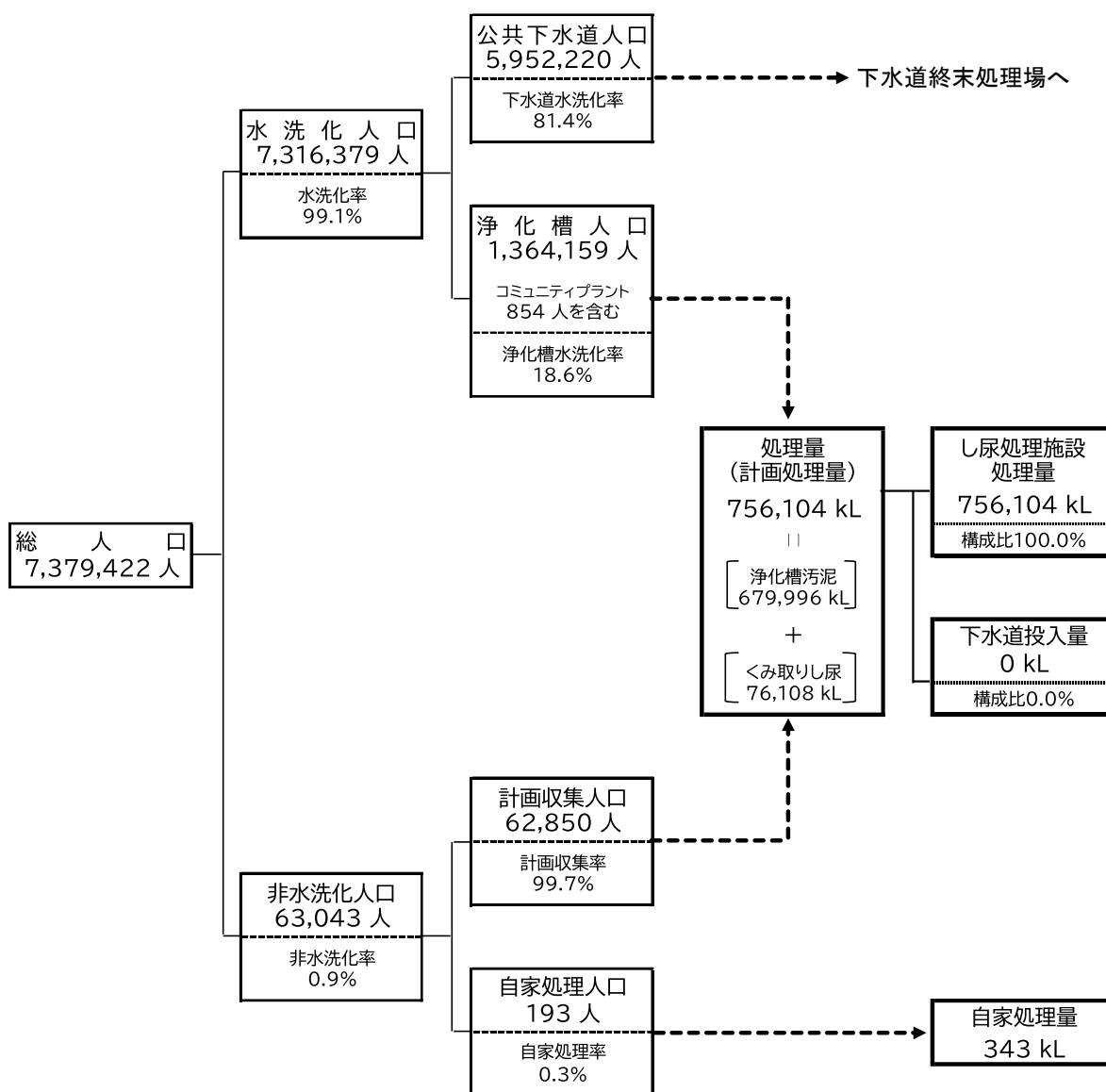
図 20 1人1日当たりのごみ排出量と焼却量(町村部、排出量の多い順)(令和5年度実績)

## 第2項 一般廃棄物(し尿等)

### 1 処理・処分フロー

本計画における「し尿等」とは、汲み取りし尿に加え、生活排水を処理する浄化槽(コミュニティプラント、農業集落排水処理施設を含む)から発生する汚泥をいいます。し尿等は、県内のし尿処理施設で適正に処理されています。

生活排水の処理については、公共下水道、合併処理浄化槽、農業集落排水処理施設、コミュニティプラント等により実施されています。県では、埼玉県生活排水処理施設整備構想に基づき、地域の人口密度や地形条件等に応じて公共下水道の整備と合併処理浄化槽等の整備を計画的に推進しています。



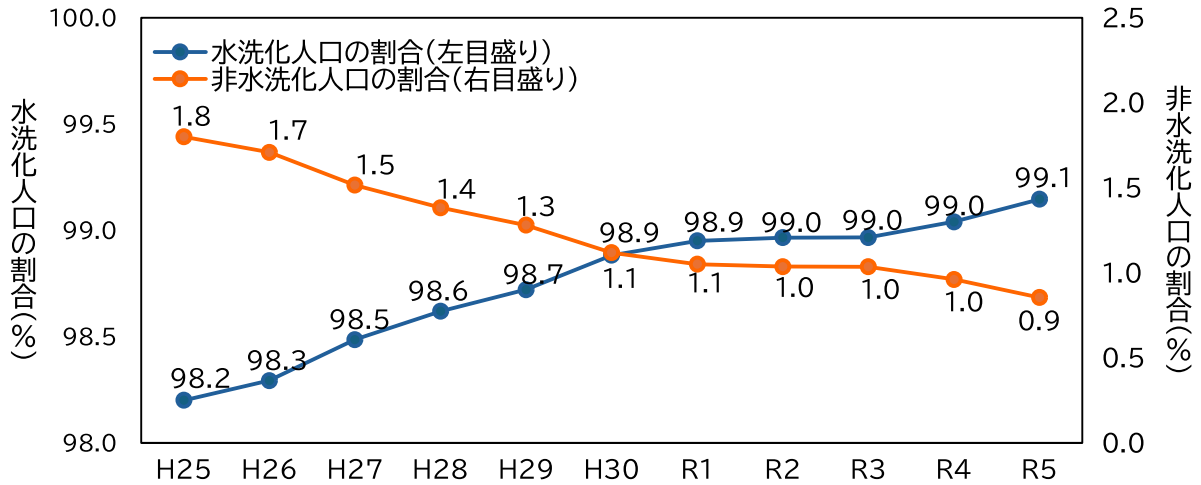
出典：一般廃棄物処理事業の概況(埼玉県)

図 21 し尿等の処理の状況(令和5年度)

## 2 排出状況

### ア 水洗化及び非水洗化の状況

令和5年度の水洗化人口の割合は99.1%で、公共下水道や合併処理浄化槽の普及により、10年前(平成25年度)から0.9ポイント、5年前(平成30年度)から0.2ポイント、前年度から0.1ポイント増加しています。非水洗化人口の割合は0.9%で、着実な低下傾向にあります。



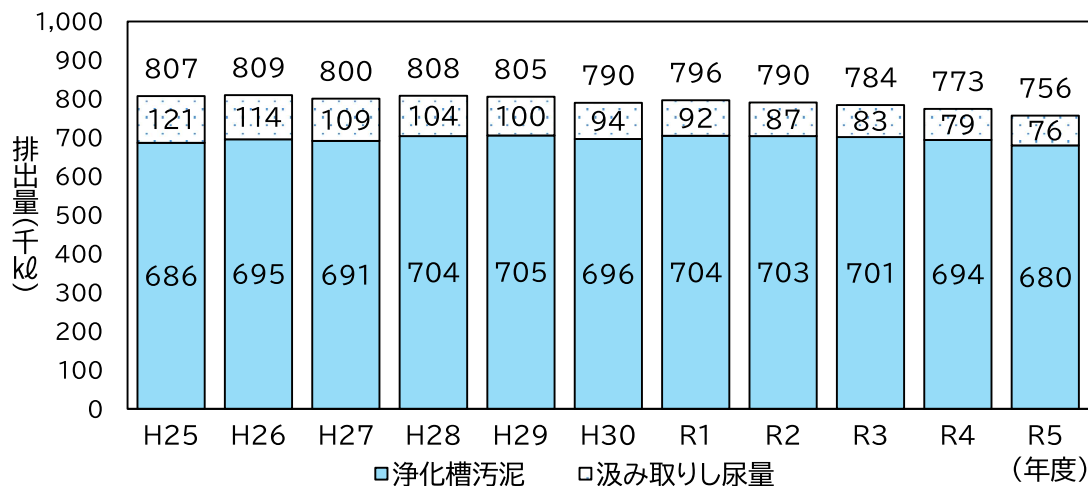
出典：一般廃棄物処理事業の概況(埼玉県)

図 22 水洗化及び非水洗化人口の割合の推移

### イ し尿等の排出状況

市町村が収集・処理するし尿等は、公共下水道や合併処理浄化槽の普及に伴い、おおむね減少傾向です。

令和5年度のし尿等排出量は756千kL(内訳：浄化槽汚泥680千kL、汲み取りし尿76千kL)で、10年前(平成25年度)から6.3%、5年前(平成30年度)から4.2%、前年度から2.2%減少しました。浄化槽汚泥が約9割、汲み取りし尿が約1割を占めています。



出典：一般廃棄物処理事業の概況(埼玉県)

図 23 し尿等の排出量の推移

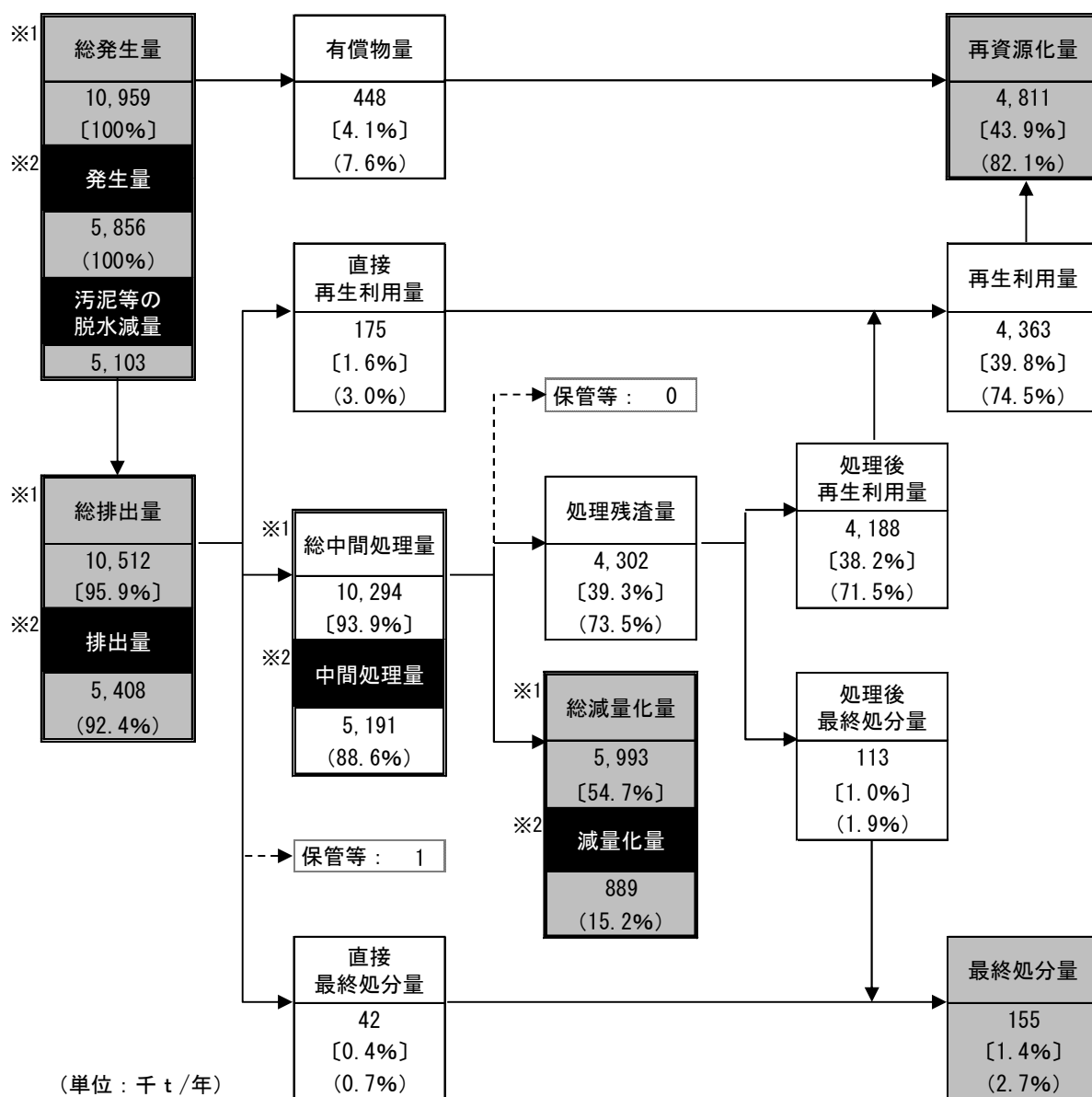
### 第3項 産業廃棄物

#### 1 処理・処分フロー

令和5年度に本県の事業所から発生した産業廃棄物の総発生量は 10,959 千 t で、このうち有償売却等で直接資源化された量(有償物量)は 448 千 t(4.1%)、これを除いた総排出量は 10,512 千 t(95.9%)です。

総排出量のうち 10,294 千 t(93.9%)は、脱水や破砕等の中間処理により減量化されます。また、4,363 千 t(39.8%)は再生利用され、155 千 t(1.4%)は最終処分されます。

なお、有償物量を含めた再資源化量(有償物量+再生利用量)は 4,811 千 t(43.9%)です。



- ※1 [ ] : 排出事業所内での汚泥等の脱水処理による減量を含めたもの。
- ※2 ( ) : 排出事業所内での汚泥等の脱水処理による減量を除いたもの。

出典: 埼玉県産業廃棄物処理実態調査報告書(埼玉県)

図 24 産業廃棄物の処理・処分フロー(令和5年度)

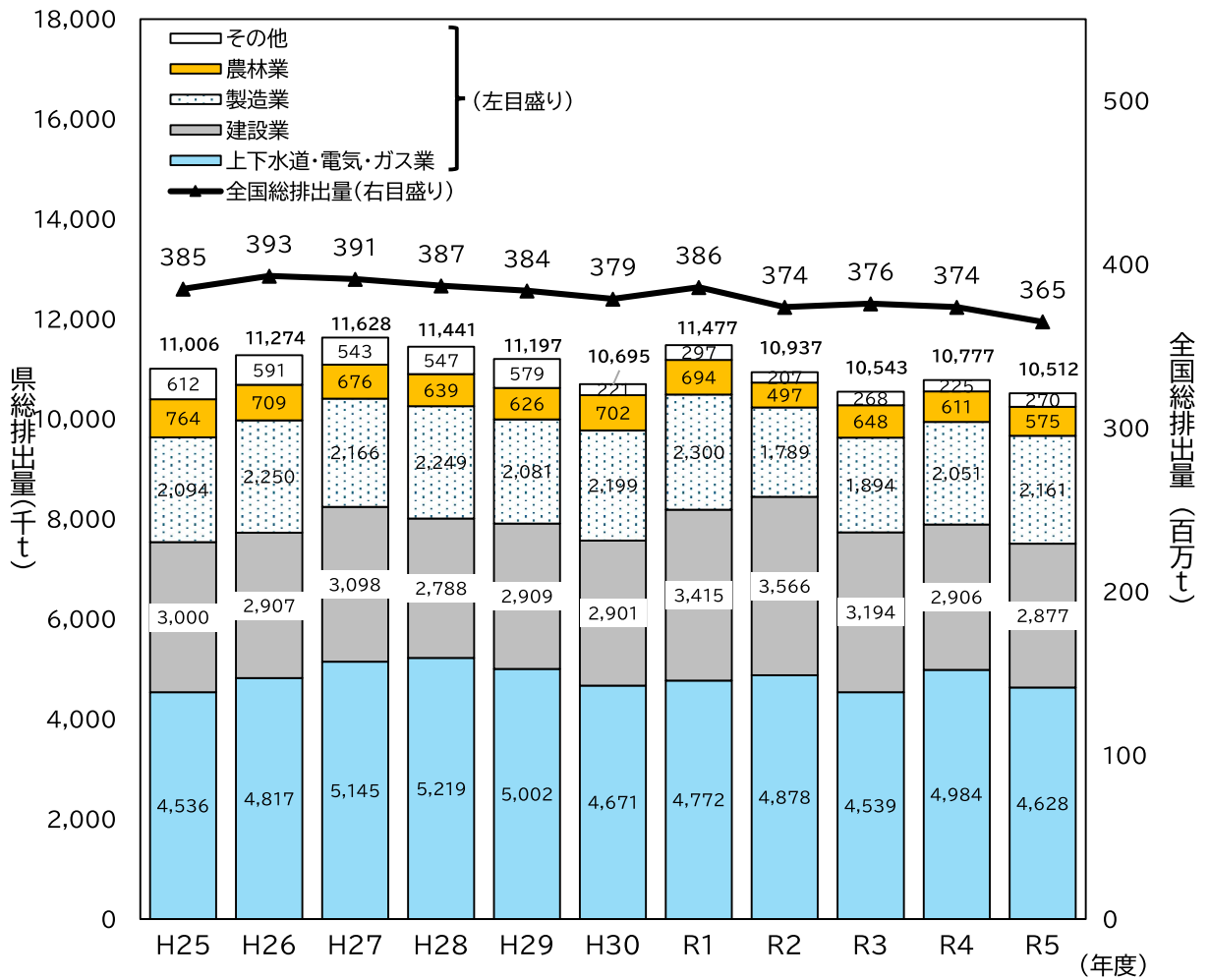
## 2 排出状況

令和5年度の総排出量は10,512千tで、10年前(平成25年度)から4.5%、5年前(平成30年度)から1.7%、前年度から2.5%減少しました。なお、全国の総排出量は、10年前から5.1%、5年前から3.6%、前年度から2.4%減少しています。

全国の総排出量は増減を伴いながらも長期的には減少傾向にあります。本県も変動幅は全国より小さいものの、同様に緩やかな減少基調で推移しています。

### ア 業種別排出状況

令和5年度の業種別では、上下水道・電気・ガス業が最も多く、次いで建設業、製造業、農林業の順となっています。



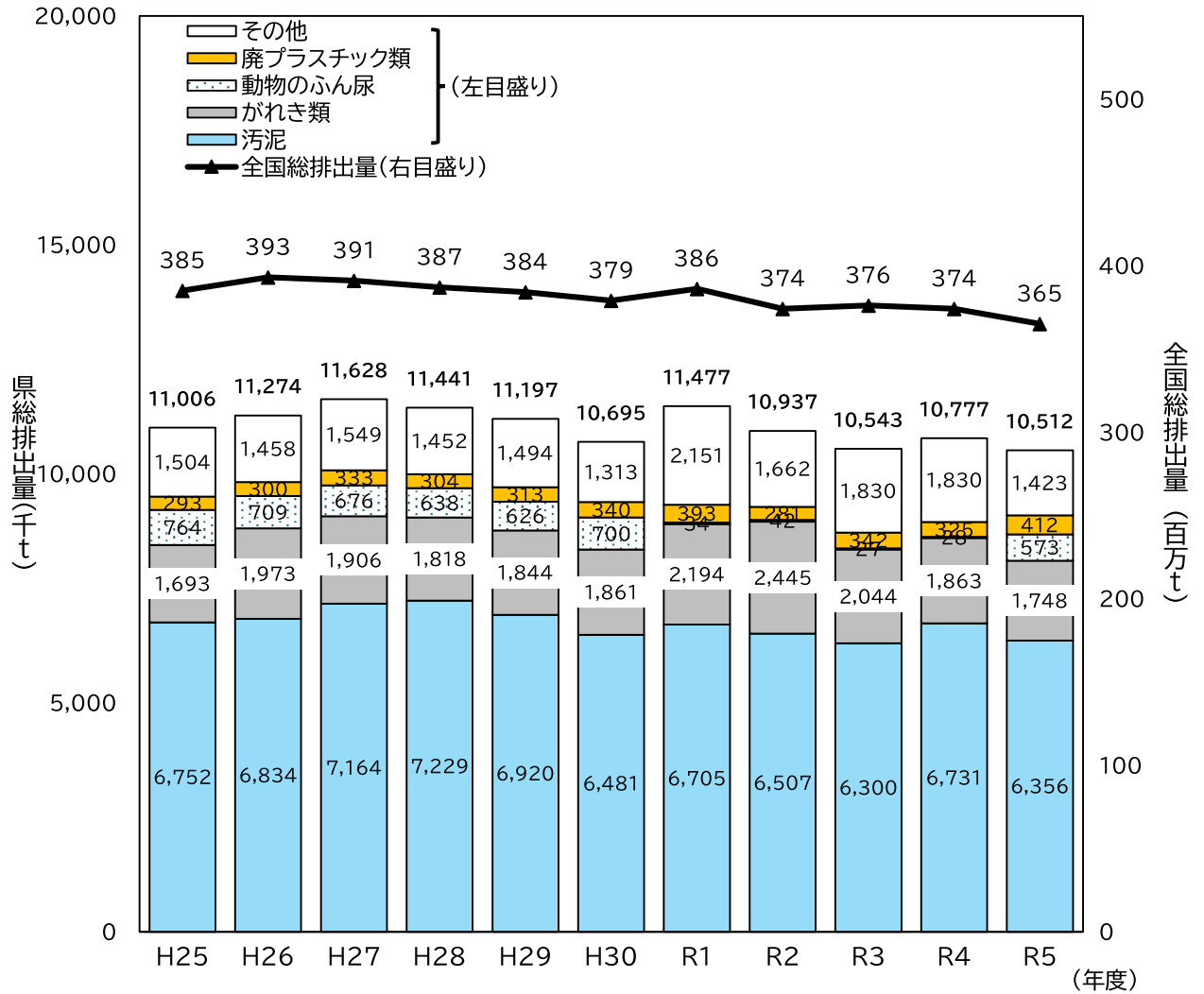
※端数処理の関係で本文中の値とグラフから計算した値が一致しない場合がある。

出典:埼玉県産業廃棄物処理実態調査報告書(埼玉県)、埼玉県産業廃棄物処理実績報告等集計業務報告書(埼玉県)、産業廃棄物排出・処理状況調査報告書(環境省)

図 25 業種別排出量の推移

### イ 種類別排出状況

令和5年度の種類別では、汚泥が最も多く、次いでがれき類、動物のふん尿、廃プラスチック類の順です。



出典:埼玉県産業廃棄物処理実態調査報告書(埼玉県)、埼玉県産業廃棄物処理実績報告等集計業務報告書(埼玉県)、  
産業廃棄物排出・処理状況調査報告書(環境省)

図 26 種類別排出量の推移

ウ 業種別・種類別の排出量

業種別・種類別にみると、排出量が最も多い上下水道・電気・ガス業では、汚泥が 4,616 千 t/年 (99.7%)とほぼ全量を占めています。

建設業では、がれき類が 1,697 千 t/年(58.9%)と最も多く、次いで汚泥 795 千 t/年(27.6%)となっています。

製造業では、汚泥が 921 千 t/年(42.6%)の割合が高くなっています。

表 1 業種別・種類別の排出量(令和5年度)

(単位：千 t/年)

業種 種類	合計	農林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	上下水道・電気・ガス業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	物品賃貸業	学術研究 専門サービス業	飲食業	生活関連 サービス業	医療・福祉	サービス業
合計	10,512 (100%)	575 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	2,877 (27%)	2,161 (21%)	4,628 (44%)	0 (0%)	32 (0%)	114 (1%)	3 (0%)	10 (0%)	34 (0%)	10 (0%)	46 (0%)	21 (0%)
燃え殻	6 (0%)	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汚泥	6,356 (60%)	0	0	0	795	921	4,616	0	1	6	0	1	5	8	1	1
廃油	85 (1%)	0	0	0	2	66	0	0	5	7	0	0	3	0	0	2
廃酸	62 (1%)	0	0	0	0	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃アルカリ	69 (1%)	0	0	0	0	65	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
廃プラスチック類	412 (4%)	0	0	0	73	222	1	0	12	59	0	2	25	1	6	10
紙くず	91 (1%)	0	0	0	23	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木くず	190 (2%)	1	0	0	135	44	0	0	6	2	1	0	0	0	0	0
繊維くず	4 (0%)	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
動植物性残さ	87 (1%)	0	0	0	0	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
動物系固形不要物	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ゴムくず	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金属くず	147 (1%)	0	0	0	23	86	7	0	1	18	1	1	1	0	1	7
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	453 (4%)	0	0	0	92	354	0	0	0	6	0	0	0	0	1	0
鉱さい	98 (1%)	0	0	0	0	98	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がれき類	1,748 (17%)	0	0	0	1,697	33	5	0	3	8	0	1	0	0	0	0
ばいじん	17 (0%)	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コンクリート固化物	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
動物のふん尿	573 (5%)	573	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
動物の死体	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
混合廃棄物等	113 (1%)	0	0	0	31	32	0	0	3	5	1	4	1	0	35	1

出典：埼玉県産業廃棄物処理実態調査報告書(埼玉県)